

## ICHI no UNCHIKU

### 母なる みちのくの山々を味わう

ここ十年余り夏山は北アルプスを避けて東北の山を歩いている。いつぞやのウチクに書いたかもしれないが、黒部源流の雲の平山荘で不幸にもオッカチャン連隊に遭遇し、あろうことか寝るスペースを奪われ、あわれにも泥だらけの乾燥室で眠れぬ夜を過ごしてから、北アルプスと聞いただけで、山小屋恐怖症になってしまった。以来これを癒すために夏山は東北の山にしているが、急性か慢性か知らないがストレス障害にかかり、いまだに治癒していない。モンゴルあたりに行けばすぐ治るかもしれない。

さて東北の山々のことであるが、概して穏やか、というか山頂部が柔らかな曲線を描いて盛り上がっている。高い山はすくない。2000mを超す山としては、鳥や飯豊山、岩手山などがあるだけで、おっと一、尾瀬の燧ヶ岳を忘れてはならない、月山や早池峰のような有名な山でも2000mに満たない。しかし独立峰（典型的な岩木山）が多く、湿原やお花畑、ブナ林など個性的な魅力を備えた山が多い。高い山の多くは火山で、そのほとんどが第三紀層からなる山脈の高まりの上に生じたものである。火山以外の高山は飯豊山、朝日岳、早池峰山くらいにすぎない。ところで一昨年だったと思うが、念願の早池峰に登った。下山して温泉で泊まろうと一帯を探したが、北上山地にはなるほど温泉は皆無といってよい。結局ぐるっと廻って遠野で泊まったことがある。活火山の多いのも大きな特色である。岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、磐梯山、安達太良山などには、数十年前から数百年前に噴火した記録があり、生まれてまだ間もない溶岩流や火山砂礫原、噴火口など、荒々しい噴火の痕跡を見ることが出来る。そこには噴火の影響を受けた特殊な植物群落が成立していて、ほかに例のないめずらしい景観を示すことが多い。岩手山や秋田駒のコマクサとタカネスミレの大群落、鳥海山の岩礫に生じたチョウカイフスマ、イワブクロの群落、蔵王山や一切経山（吾妻山）、安達太良山のヒメコマツの群落などはその代表的な事例である。飯豊山、月山、鳥海山など日本海に面する山々は日本を代表する多雪地帯で、残雪が多く、越年するものもめずらしくない。また亜高山針葉樹林帯が欠如して「偽高山帯」と呼ばれる草原や低木林になっており、夏にはわが国屈指の見事なお花畑が展開する。さて、世界遺産に登録された「白神山地」である。ブナなどの山々の豊かな自然が「世界遺産」の価値であり、ありがたいのであるが、観光客が毎年大量に訪れている。

しかし、その数に惑わされてはいけぬ。観光客の数が山の魅力に比例するわけではないからである。昨年「日本百名山」のみを登山の対象にしたり、時間を争ったりする風潮にはこまったものである。いまは亡き深田九弥氏を中宮温泉

から燧ヶ岳に案内したことがあるが、くさばの陰でさぞかし嘆いているものと思ったりする。

登山の魅力というトータルな観点からすれば、もっとも充実した有意義な「みちのくの心」を味わえる山々が東北地方にはいくつもある。東北地方の山々は、麓から眺め上げても、その反対に山頂から麓を眺めおろしても豊かさが印象づけられるのは、遙かな縄文の昔から自然と人事が一体化した風景だからである。山々の恵みに支えられた人びとの暮らしの匂いが、文化的伝統として風景に溶け込んでいる。そのような意味で、みちのくの登山は「山登り」というより「山旅」と称するほうが小生にはふさわしい。寝台特急に



(栗駒山)

乗って、食料・寝具類もって避難小屋に泊まり、下山しては麓で温泉浴（欲）を堪能し、早池峰神楽などの伝統行事や祭りに触れ、下界では観光としやれこむ。

・・・今年もポチポチ行くか。

by 市村 銚治



2007/09

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1166

石川県金沢市上若松町23番地

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2007/09

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

## 長 月



京都高台寺にて by shio

私は心がくじけそうになった時、負けそうになった時、悔しくてたまらなくなった時、決まってある人の曲を聴きます。

その人の思い、生き様、強さ。全てに共感できる自分がいます。

勝手ながら一つ紹介させていただきます。

「くよくよするなよ あきらめなごじり」

Just like a boy

その痩せこけた頬のままでも 果てしない迷路の中  
を人はみんな手探りしても

STAY STAY DREAM」

ここだけで全てを語れる訳ではありません。しかし、私はこれだけで勇気がわいてきます。また前を向いて行かなきゃダメじゃないかという気持ちになれます。

私も「最近の若いモンは」と言われる世代の一人ではありませんが、まさにその世代は、あまりにもあっけなく諦めたり、止めたり、ましてや初めから挑戦すらしないような人が多すぎるのではと勝手に思っています。

確かに高度成長期のように世間が夢や希望に満ち溢れた時代もあったかもしれませんが、私らはそんな

な時代には生きていません。だからこそ、一人ひとりが自らの夢をあきらめず、この理不尽な世の中に戦いを挑んでいくべきじゃないでしょうか？

私にも少なからず夢があります。夢というかそうするものだと思いつけてきたものです。そこにはまだまだ多くの問題もあるし、自分の努力も必要です。しかし、そこへたどり着くためには、とにかく今いる場所で精一杯努力していく事が重要だと思っています。努力なくして何も生まれません。また努力した分だけきつと帰ってくるはずだと信じています。

「信じること」

これが大事なのではないのでしょうか？同じ時代を生きていかなければならない人の多くが、「信じること」をあきらめないで生きていくことで、小さい自分の周りの世界から変えていけるのではと思っています。

今回、「この場に投稿させていただくこと」になり、悩んだ点もありましたが、あえてこの思いをぶつけてみました。ありがとうございます。

STAY DREAM



【プロフィール】

本名：原 一貴

所属：五大開発株式会社 地盤技術部 技師

生まれ：石川県羽咋市

経歴：大卒

趣味：スポーツ全般をやること、みること、ゴルフ（したくても出来ないけど）

## 濱のつばやき 「二テツ」

今年の十月、同窓会に出ようと思っ。

我が母校である高校の同窓会は毎年開催されているが、札幌なので中々出席できないでいた。今年は私の学年が幹事年のため、ブログなどを利用してかなり活発に活動の様子が伝わってくる。便利な世になったものである。

幹事会の様子などもメールにデジカメの写真が添付され届く。面影のある奴、一見よく判らない奴。再会が楽しみである。

昨年春に池田・北見間を走っていた第三セクターのふるさと銀河線が廃止になるとい話を聞きつけ、急遽道東に飛んだ。自分の鉄道趣味に何を思ったか同行した家内。人知れぬ温泉宿に泊まるやら、鉄道ファンと車中で話し込むやら、怪しげなテツちゃんぶりを横目で堪能していた。

今回も夫の同窓会に同行するという。はて、どこを巡ろうか…と思案していたら、ある雑誌が目飛び込んできた。

かつて日本一の赤字路線として有名になった道北の旧美幸線。一部開通後、工事もほぼ終わり、あとは線路を敷設するだけという状態で、地元の熱意も空しく廃線。その後自分で運転できるトロッコを運行しているNPOがある！というのである。これは行かねばなるまい。

蒸気機関車の雄姿を撮るべく道内を走り回った中学の頃は、授業そっこのけで時刻表とにらめっこ。最

適なルート・列車を探し出したものだが、今ではネット検索で、いとも簡単に答えがでる。行程を見ると、名寄で前泊すれば翌日トロッコを楽しみ、札幌に戻って同窓会に出られそうである。

廃線後、線路の間から生えた木を伐採し、整備してトロッコを運行するに至るまでは並々ならぬ苦労と堅い意志があったという。許認可の塊である鉄道関連施設の再利用構想をどう乗り越え実現させたか。こちらも伺いたい。件の銀河線も一部は保存され、地元で観光鉄道としての再出発が計画されているという。住民の乗客が見込めない路線を徒歩並みの速度でのんびり走る特急列車が、JR九州にある。深谷と山並みを乗客に堪能してもらうためである。おまけに特急料金が上乘せ収入となる。急がない特急列車。この手があったかと唸ったアイデアである。

全国の鉄道は赤字路線が切り捨てられつつある。それはそれで致し方ないのかもしれない。しかし、このような各地でのアイデアの搾り出しと努力を伺うにつけ、赤字Ⅱ廃止の短絡思考は、無智恵の証明であるようにさえ思えてならない。

全国各地の地域づくり・村おこしに呼ばれている。豊かで資源に恵まれている地域ほど住民は、失礼だがぼんやりしているような印象だ。本当に集落が亡くなる危機感があるのか…。恵まれた環境でぼんやり過ごすのが幸せなのか、厳しい環境でも不屈の精神で困難を乗り越えようとするバイタリティに溢れるのが幸せなのか。

人間の欲と環境と意志と、そして行い。その先に広がっているであろう人生の岐路と幸・不幸。全てでは自己責任の結果なのだが…。



## 『暑い夏に気づいた妙な事』

(株)アスリック プロジェクト推進部 五十嵐 政信

この夏、小学3年生の次男坊の夏休みの宿題である観察レポートの手伝いのため人肌脱いでやったのだが、この時妙な事に気づいた。

去年の夏休みは、「土に帰る野菜」と題して、人参やキャベツ、スイカなどのかけらを土の上に置いて、毎朝デジカメで写真を撮り、こういった野菜が腐り、やがて土に戻っていく様子を、1ヶ月間にわたり観察してまとめた。とは言え、今年も1ヶ月も悠長に観察していることは面倒くさい。カミさんから、何度も何かいいアイディアはないかとせっつかれ、思いついたのはアリの観察だった。

アリの好みそうな砂糖や飴玉やスイカなどを地面の上に置いて、寄ってくるアリを観察する。単に観察するだけでは面白くないので、上記の食べ物を置く場所を、色の異なる画用紙にして、色の違いや食べ物の違いが、アリの集まり方にどんな影響を及ぼしているのかを、デジカメで写真を取りながら観察することにした。これなら2~3時間くらいで観察そのものは終えることが出来る。我ながらいいアイディアだと思った。観察の切り口としては、去年ほどの斬新さはないものの、小学校3年生の次男坊が手がけるには、ちょうどよいテーマだと思えた。

で、話は戻って、妙な事に気づいた話である。肝心のアリがいないのである。アリくらいはどこにでもいると思っていたのに・・・最初は家の裏庭でやろうと思ったのだが、よくよく見ると、アリがいない。まあ、家の裏（といっても猫の額より小さな庭なのだが）は、カミさんがお気に入りの花を植えているので、アリよけのクスリでも撒いているのだと思った。それで玄関の前の駐車場でやろうと思ったのだが、こっちの方はコンクリートやアスファルトですっかり舗装されている。それでアリが1匹も見当たらない。

そう言えば、今年はやたら蝉が多く、駐車場には蝉の死骸が3~4匹いつもころがっていたのだが、この死骸が一向になくならない。いつもの夏ならば、いずこともなくアリさん達がやってきて、この蝉の死骸を分解してなくしてくれたはずなのに・・・それではと思い、家の近くの小さな公園まで出向いてみた。ここでも蝉だけは異常に発生していたが、アリがいないのである。今年の夏は、毎日35度以上の猛暑日が続く、さすがのアリも熱中症にやられたのかもしれない、とも思ったが、まさかそんな事もないだろう。

結局、アリの観察は、実家の近くのお寺の境内で行う事にした。ここには何とか観察するだけのアリさん達はいたが、以前と比べると明らかに少ない。また、昔いたようなでっかいアリはついぞ姿を見ることが出来なかった。確かにここ数年、アリを改めてみるということなどやっていなかったのだが、自然界の秩序の崩壊は着実に進んでいるのかもしれない。猛暑が続く中で、ちょっと背筋に冷たいものを感じた次第である。

## 『温泉への誘い(54) ー高原の温泉ー』

著者ご本人のご希望により、インターネット版ではご覧いただけません。

## 『資質』

ナチュラルコンサルタント(株)

第1都市計画部 木内

平成十七年七月、白山市に観光戦略会議が設置された。低迷する観光産業の活性化とスキー場再編を討議する会議である。戦略会議は有識者ほか産業団体代表ら三十名で構成された。うち、若干名は市民からの一般公募があり、個人的に応募したところなんと採用の通知を頂いた。かくして、任期三年の戦略委員として活動することとなった。

今春、戦略会議の集大成となる基本計画策定と市長答申をもって務めを果たしたわけだが、戦略委員として携わった三年間の経験と有識者らと対話はかけがえのない糧となった。

「観光」の語源は、中国古典の易経にある「観光とは國の光をみること」に由来する。昨今、集客数や利潤など定量的指標が観光論の中心となりがちだが、本来の観光、すなわち地域特有の魅力ある資源を磨き、光り輝かせることに目を向け直す必要があると痛感した。

資源を磨き、維持していくには多大な費用を要する。それを負の遺産だとする意見があることは否定できないが、すでにある資源と蓄積された経験を活かし、再生を図ろうとする前進的意識には大義がある。

宝石の最高峰ダイヤモンドは研磨することで価値が生まれる。その評価には4C(カラー、カット、クラリティ(透明度)、カラット(重量))という定型的価値基準がある。宝石も観光も原石(資源)を磨くという点では共通するが、観光の評価基準は不定型であり、善し悪しの判断は一樣ではない。一方、「ダイヤモンドは原石の段階で輝く素質がなければ、その後どうカットしても一級品とならない」という。

観光産業活性の鍵は、原石である観光資源の資質が握っている。とはいえ、いかに優れた資源でも人的資源に恵まれなかったり、来訪者を迎え入れるホスピタリティがなければ決して賑わうことはない。そして宝石との最大の相違は、人には「努力と成長」という可能性が常にあることに他ならない。

先般、中国に「絶壁頭では成長に限界があるので、頭蓋骨の丸い子だけ入園可能なエリート養成幼稚園」が誕生したそうだ。未恐ろしい話である。



## 【ガソリン高等で気になる物、話題】

最近のガソリン高で、改めて見直したものをいくつか挙げてみます。

### ①HONDAスーパーカブ (バイク)

ご存知世界中で累計5000万台販売され、今も売れ続けている。エンジン付きの乗り物としては世界最多の乗り物だそう。リッター当り130Kmの低燃費と頑丈さ、使いやすさは実証済み。私自身も本気で通勤に使えるか。



### ②フォルクスワーゲン パサート・ブルーモーション(乗用車)

今年2月のジュネーブショーで発表された。1.9リッター TDIディーゼルエンジンを搭載し、19.6km/Lの優れた燃費低性能を実現。「BlueMotion」(ブルーモーション)とは、持続可能な社会への取り組みを推進する活動らしい。



### ③スウェーデン、ベクショー市(都市)

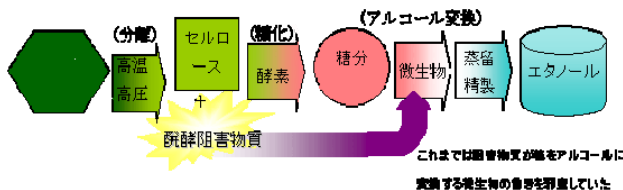
1992年に開催された国連環境開発会議 (UNCED) で採択されたアジェンダ21が目指す持続可能な開発 (Sustainable Development) の実現に向けて策定された「ローカルアジェンダ21」を世界で最も徹底的に行っている街。この街の目標はズバリ「化石燃料の使用をゼロ!」である。木質バイオマス発電や下水処理汚泥のメタンガス発電等で50%以上の自給率を実現している。ドイツやスウェーデンはやる事が徹底していますね。

### ④日本、岩手県、葛巻町(くずまきまち：自治体)

破産寸前の自治体が、今では風力発電やら、バイオマス発電やらで、やたら元気になったという。マスコミでも多く報道されている。いわば「日本版ハラショー」。

### ⑤.RITEとHONDA、セルロース系バイオマスからのエタノール製造新技術を共同開発(技術)

あのHONDAがRITE(財団法人 地球環境産業技術研究機構)と組んで、本気でセルロースからバイオエタノールを製造しようとしている試み。現在、トウモロコシやサトウキビからしか大量生産できないバイオエタノールを道端の雑草や稲の藁から大量生産しようとする



### 第57章

以正治國。以奇用兵。以無事取天下。吾何以知其然哉。以此。天下多忌諱。而民彌貧。民多利器。國家滋昏。人多伎巧。奇物滋起。法令滋彰。盜賊多有。故聖人云。我無為而民自化。我好靜而民自正。我無事而民自富。我無欲而民自樸。

現在の中国は利益を求めることが最優先であるという意識があるのでしょうか。やらせ報道もありましたが、手法を選ばず、結果として利益が多く出れば良いような空気があるのでしょうか。このあまり誇れる意識ではない「方針」が国民に広がってしまったのは、単に中国という国に責任があるだけではないと思います。

労働力の豊富さと賃金の低さがビジネスチャンスとばかりに、日本企業を始めとする先進諸国が労働力の活用と技術力の流出を図ったことで、「金」に関する過度な「欲」を根付かせてしまったことも大きな原因ではないでしょうか。確かに資質はあったのですが、およそ、このままであれば、中国は経済社会にあって未成熟なままものづくり立国を経て、観光立国をしていくことになるでしょう。その表れとして、著作権を無視したキャラクター商品やテーマパーク建設などが問題になってきています。

しかし、中国にとってマイナス面であるこのような状況は、北朝鮮ほどではないにしても、まだまだ奥底が見えない、どこか神秘的で異文化の香のする中国といった魅力も漂わせており、北京オリンピックを契機に、観光客の受け入れ態勢を充実させていけば、日本にとって大きな恐怖となるはずはです。

前述した問題点も、外国との交流が活発化すれ

ば、過渡期によくある文化摩擦として忘れられることになるかもしれません。

中国にとっては、徹底的なハリウッド化・国際化を進めるのか、最低限の改善にとどめ特異な文化としてダークな面もブランド化していくのか、これは国としても大きな選択を要するのかもしれません。



以前であれば、間違いなく「前者」が選択されたはずで、国民教育・誘導がまず行われ、国民に根付かないまま「演技」としての国際化が国民の中に広がっていくことになったはずはです。

しかし、情報化社会の成熟期にあっては、老子の言うように、国は「私が無為なままにあれば、民は自ら進んで自己改革を成し遂げ」「私が静謐(せいひつ)なままにあれば、民は自ら進んで襟を正し(正しい)ことを行い、」「私が業務をしないままにあれば、民は進んで自ら富んでいく。」「私が無欲のままにあれば、民はおのずから素朴で正直になっていく。」として、都市基盤、生活基盤、情報基盤の拡充に努めるだけで、あとは国民の意識に委ねることが最善の策なのかもしれません。

さて、日本の経済発展を横目で見えてきた中国の追従に対し、日本はどう対処すれば良いのでしょうか。具体策はともかく、「日本文化」を復興、保護していくことは間違いのない一つの施策でしょう。

by shio